小山勇朗市議会報告

2019年
6月30日

社民党仙台市議団
太白事務所

2019年第2回定例市議会報告

計15議案を審査

令和元年第2回定例市議会は、6月7日から24日まで開かれ、市提案が14件、議員提案が1件の、計15件の議案審査を行いました。

一般会計の補正予算では、錦丘中学校に防災対応型太陽光発電システムの整備費として万円余が計上されました。一方、市が道路照明灯の電力契約を解除し忘れた等の問題に関連して街路灯電気料を約1700万円減額したため、差し引き1500万円余の小規模なものとなりました。

コールセンターの整備へ

また、市民からの市政に関する問い合わせを一元的に受け付ける「コールセンター」等の整備に向けて、整備基本構想を策定するとともに、補正予算においては、整備・運営費として令和7年までの5年間で4億9300万円の債務負担行為の設定も提案されました。

市税収入の悪化を招く国の「地方税法改正」

条例関係では、地方税法の改正に基づき、環境性能に配慮した軽自動車の税率を軽減するとともに、市税である法人市民税を国税の地方法人税に付け替えることによる市税条例の改正案が提案されました。しかし、これにより、交付税措置で補填されるとは言え、市税収入が63億円も減収となるなど、市財政運営への悪影響が懸念されることとなりました。

その他、放課後児童支援員の研修を政令市の本市も行うことができるようにするための改正案、東日本大震災の防災集団移転跡地の荒浜地区で観光果樹園を整備するための建築物制限を緩和するための条例改正案、「水道法」の改正を受けての指定給水装置工事事業者指定手数料の改定、みやぎ台ニュータウンの地域下水道を公共下水道処理区域とするための条例改正案等も上程されました。

「人と猫との共生に関する条例」を議員提案で制定

近年、猫がペットとして人々の生活と深く関わりを持ってきている中、飼い主のない猫や飼養放棄された猫の繁殖が地域の生活環境に悪影響を及ぼしていることなどが課題となっており、不妊去勢手術の徹底などが求められています。

そういう中、市議会では全会派が賛同して条例制定の議論が進められ、議員提案により上程され、第2回定例会で全会一致で可決成立しました。

条例では、市民の理解と協力の下、市、飼い主、販売業者、獣医師等が一体となった取り組みによって、猫の苦手な人も含め誰もが猫と共生することができる社会の実現をめざす、という趣旨となっています。

難航する「街路灯電気代問題」

仙台市が、道路照明灯（街灯）のLED化に伴う工事の際に、電力契約を解除せずに電気料金を払い続けた事例や、新たに設置した街灯の未契約による未払いがあることが判明しました。その過払いは約9200万円で、未払い分は約2300万円とな

ることが報告されています。市当局は、これまでその解明作業に取り組むとともに、東北電力との協議を進めてきました。

しかし、六月に入っても「双方が共通認識に立ち協議が思う状況に至っていない」と、協議は難航しています。未払い分は市が負担すべきことは当然ですが、過払い分は公金であることから、協議調整を進めなくてはなりません。一方、なぜこのような事態が生じたのか、担当職員の責任問題もありますが、契約のあり方、市担当者及び街灯事業を請け負う業者と東北電力の間の事務処理のあり方なども問われています。

市議会は、これまで議員協議会を開くなど、当局に説明を求めるなどしてきましたが、引き続き、これらの点の解明と責任の所在などが問われているところです。

四郎丸排水ポンプ場の建設促進

四郎丸雨水排水計画については、放流渠が平成28年度から29年度詳細設計・国交省協議を行い、流入渠・幹線については、平成28年度から30年度まで地質調査・設計を行ってきました。放流渠については、平成30年度から工事に着手し、令和2年までには終了予定となっています。流入渠につきましては、本年工事に着手し、令和2年には終了しますが、堤防のところの「樋門」は国土交通省管轄になっており、パイプの堤防貫通には2年ぐらい要するものと考えられます。従いまして、東四郎丸小学校付近の雨水排水、浜掘り雨水幹線、昭和中雨水幹線からの流入渠幹線には時間を要する状況にあります。

南仙台駅、利用者の利便性を考え、橋上駅に向け進めよう

現在、南仙台駅は、エレベーターは二基設置したものの、西中田からの利用者は、南方向は一回で住むが仙台方面に行くためには、駅構内に入りまた階段を上るかエレベーターを利用して乗ることになっています。利用される皆さんが楽に利用できる方策は、南仙台駅の橋上化以外ないと考えますので、地域の連合会や利用者の声を大切にしながら早期に解決できるよう取組んで行きたいと思います。

東中田消防分団詰所
要望が叶う

東中田消防分団の詰所(待機所)の建設を要望されておりましたが、今般、四郎丸公会堂のある公有地に建設出来ないか「東中田町内会連合会、会長・菅井勝之」さんに同行願い、財政局財産管理課及び市消防局消防団係の皆さんと協議した結果、建設する方向で進めることが確認できました。この詰所は、火災などがあった場合、団員の待機場所として、また、四郎丸班や袋原班の会議等に利用されることとなります。

四郎丸バス待機所、㈱センケンホームのご寄贈で建替えに。

地元の協力者の皆さんが浜堀の土地に建てられていた四郎丸バス停待機所が、昨年の強風により倒壊し、危険ということで地元の皆さんが撤去いたしました。その後、新たに設置してほしいという利用者のご希望があり、交通局に要望しましたが、屋根付き停留所の設置は出来ないという回答でした。東中田町内会連合会の菅井勝之会長さんと一緒に区役所や企業へ寄贈のお願いなど依頼し、四郎丸バス待機所については、西中田に事務所のある「㈱センケンホーム」さんが地域のために寄贈していただけるという温かい回答を賜り、建て替えが出来ることになりました。土地については市の方に東中田町内会連合会が、地域として借用願いを申請して借用することになりました。場所は今までと同じ場所です。これから設計などに入りますので、まだ時間がかかると思いますので楽しみにして下さい。

雨や雪などがしのげると思います。利用者の皆さんがお互いに協力し合いながら利用して頂ければ、ご寄贈いただいた㈱センケンホーム様も幸いと存じます。

歩道続きの「橋」、完成しました。

地域の歩道整備要望として、平淵市営住宅前から南方向の歩道が九ヶ村堀のところで橋が無いため切れておりましたが、この度ようやく完成しました。これまでは、歩道が切れるため歩行者が一旦車道に出て行かなければ歩道に戻れませんでしたが、今度からは橋を渡って通学や買い物が出来ることになりましたので安心です。

地域交通の新しい電動式交通システムを視察。

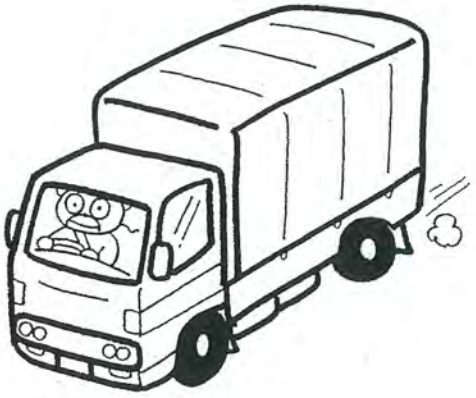
地域交通の取り組みとして、従来の乗り物とは違う、新しい交通システムの取組が全国的に広がってきています。その取り組みの一つに、群馬県桐生市の㈱シンクトウギャザーが製造し、実践している「電動コミュニティビーグル」（時速19kmの低速走行）があります。社民党仙台市議団は、この先駆的な取り組みに学ぶため、5月8日に会社を訪れ、視察を行いました。ユニークなデザインに加え、ソーラーパネルを乗せることも可能で、対面式ベンチシート付きなど、今後の地域交通のアイテムとして大いに参考になりました。

政令市政策研究会集会を新潟市で開催

5月9日～10日、毎年開催している政令市議会政策研究集会が、新潟市で開催されました。

今年のテーマは、「農業政策」と「柏崎刈羽原発再稼動と新潟市への影響」でした。原発問題に関しては、「柏崎刈羽原発裁判の争点と再稼動阻止の展望」と題して、弁護士の近藤正道氏より講演していただきました。

翌日は、「新潟市農業活性化研究センター」と「アグリパーク」の現地視察を行いました。「アグリパーク」は、公的教育ファームとして整備され、農業に触れ、親しみ、学ぶ場の提供、農産物の生産・加工、6次産業化の推進、担い手育成などの課題に取組んでおり、全国屈指の農業都市・新潟市ならではの施設でした。

この研究集会の前後に、市議団は、「フードバンクにいがた」が取組む、貧困対策として寄付などにより、寄せられた「お米」を一人親家庭等に届ける「にいがたお米プロジェクト」の活動を視察しました。また、帰路の途中、さいたま市を訪れ、大宮駅前の「まるまるひがしにっぽん」東日本の観光連携の取り組みを視察しました

社民党仙台市議団の一般質問において、泉区の石川けんじ議員が「公共施設にオープン型・宅配ロッカー」の設置を求めました。理由は、激増する宅配便の年間取り扱い個数が、2017年度42億個を超え（国交省統計）、再配達が社会問題となっており、その解決に向けて業界のみならず、利用者や行政の取組が広がっています。利用者の利便性や公共サービスの向上、ドライバーの労働負荷の軽減、二酸化炭素排出量の削減の他、明るくなることから防犯効果も期待できるとして、バス停がある市役所庁舎などに「オープン型宅配ロッカー」の設置を求めています。答弁で、藤本副市長は「個人の利益に供する課題もあり、ニーズの把握に努めながら中止して行くと述べ、交通管理者は業界の求めに応じ対応する考えを示しました。